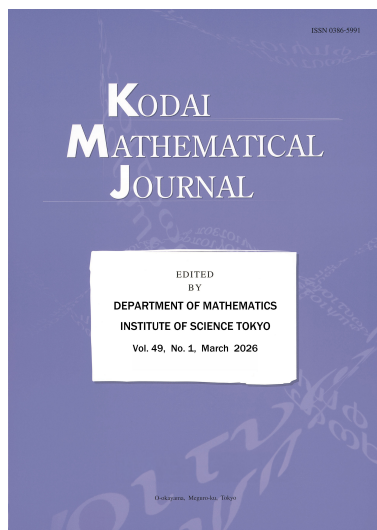


数学ジャーナルだより

Kodai Mathematical Journal



東京科学大学理学院数学系
利根川 吉廣

Kodai Mathematical Journal (以下 KMJ) の歴史を辿ると、その前身が Kōdai Mathematical Seminar Reports (工大数学セミナー速報, 以下 KMSR) であることがわかります。KMSR は昭和 24 (1949) 年に創刊されました。創刊当初は写真版で年 6 回刊行されていましたが、昭和 27 (1952) 年からは年 4 回刊行となり、昭和 32 (1957) 年からは活版印刷に変更されました。その後、昭和 52 (1977) 年の第 29 巻まで発行されました。

KMSR が創刊された昭和 24 (1949) 年は、終戦後、戦前期から続いていた学制改革議論の結果として多くの新制大学が誕生した年でもありました。当時の日本は、歴史的にも稀なインフレ状態にあり、紙も配給統制下に置かれていたため、学術誌の出版は極めて困難な状況にありました。さらに、戦前から存在していた多くの学術誌が戦中に休刊・廃刊となり、研究成果の発表の場が著しく不足していました。このような状況のもと、多くの大学や学術団体がこの時期に学術誌を創刊することになったのです。

当時の東京工業大学は、大岡山キャンパス内に「学術文献普及会」と呼ばれる財団法人を関連団体として有していました。KMSR 黎明期の奥付によれば、本誌の発行および印刷はこの「学術文献普及会」が担っていたことが確認できます。昭和 24 (1949) 年の創刊当時は、学生向けの「学習案内」の印刷すら十分に行えない状況であったようです。それにもかかわらず KMSR が創刊されたことから、数学教室が研究発表機関の重要性を強く認識していたことがうかがえます。奥付の記載の変遷を見ると、やがて編集は数学教室、発行は東京工業大学、印刷は外部の印刷所に委託するという体制へと移行しており、刊行体制が徐々に整備・拡充されていったことが読み取れます。

KMSR 創刊当初の編集委員は、新制東京工業大学数学教室に設けられていた 4 講座の教授、池原止戈夫、河田龍夫、小松勇作、遠山啓の 4 名でした。昭和 32 (1957) 年以降は編集委員長が置かれ、昭和 48 (1973) 年まで小松勇作がその任を務めました。編集委員

は、当時在籍していた数学教室の教授および助教授を中心に構成されていました。

もっとも、このような出版体制が戦後急速に整備された背景には、それを支える前史が存在します。東京工業大学は旧制帝国大学とは異なり、単科系の国立大学として発展してきました。昭和 4 (1929) 年、旧制専門学校であった東京高等工業学校から旧制東京工業大学へと昇格した後、昭和 7 (1932) 年から和文誌『東京工業大学学報』を年 12 回刊行しました。同誌には主として工学関係の論文が掲載されていましたが、当時数学教室の助教授であった久末啓一郎は、この学報に数学論文を 13 本ほど掲載していました。さらに、その前身誌である東京高等工業学校の『東京高等工業学校学報』には工学論文のみが掲載されていたことから、数学研究の発表の場が徐々に形成されていった過程をうかがうことができます。

KMSR から現在の KMJ へと誌名が変更された直接の理由は明確ではありません。しかし、KMSR は昭和 30 年代に入る頃から掲載論文の質・量ともに向上し、編集・発行・印刷の体制も次第に充実していきました。こうした背景のもと、ジャーナルの発展的継続を見据え、計画的に新しい誌名への移行が進められたものと考えられます。実際、KMJ 創刊前年の 1977 年には、KMSR に挟み込まれた緑色の小さな紙に英語で次のような告知が掲載されています。「Kodai Mathematical Seminar Reports は第 29 巻第 4 号 (1977 年) をもって現在の誌名および刊行形態での出版を終了し、新しい学術誌へ移行します。(中略) なお、本誌の対象分野および編集方針は従来と変わりません。新しい学術誌に対しても引き続きご支援をお願い申し上げます。」ここから、KMJ への連続的な移行が意図されていたことがわかります。

昭和 60 (1985) 年に刊行された『東京工業大学百年史 部局史』には、「この両誌とも、数多くの論文を掲載し、教室員の研究活動を刺激し促進したものである。同時に、数学全般にわたり大いに貢献してきたし、さらに、本学の声価を大いに高めたものといえるであろう。(原文ママ)」と記されています。実際、初期の KMSR に掲載された論文は、当時在籍していた教員による論文と、国内外の研究者による論文とが掲載されていました。このことから、KMSR および KMJ は、機関誌としての役割を担うと同時に、国際的な学術誌としての機能も果たしていたといえるでしょう。昭和 48 (1973) 年以降は編集委員長の記述がない時期が長くありますが、藤田隆夫 (1998-1999)、吉田朋好 (1999-2003)、二木昭人 (2003-2010)、柳田英二 (2011-2015)、利根川吉廣 (2015-現在) がその後編集委員長を務めています。

2024 年 10 月に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して東京科学大学になった際には KMJ の名称を変更するかどうか検討しましたが、長い伝統がある雑誌名を変更しないこととし、今に至っています。そもそも Kodai が何を指しているか知らない人も多いのではないかと思います。そのままにしておいてもよいだろうと考えました。

雑誌の電子化については 2003 年 4 月からは、コーネル大学図書館とデューク大学出版

局が共同運営する数学・統計学分野の電子ジャーナルプラットフォーム Project Euclid において電子版の公開を開始しました。現在、Project Euclid が提供する購読コレクション Euclid Prime の対象タイトルとなっています。2009 年 4 月からは国立研究開発法人・科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナル公開サイト J-Stage においても電子版の公開を開始しました。どちらのプラットフォームにおいても KMSR 1 巻から KMJ 最新号まで掲載されており、発行後 5 年間は認証された機関のみへの公開、それ以降はすべて公開になっています。2つの独立したプラットフォームにおいて公開することで、数学に求められる永年性を保てるものと考えています。近年、学術ジャーナル全般が紙媒体から電子媒体へ移行する潮流が加速するなか、今後も安定した発行体制を維持するために、Vol.46（2023）No.3 をもって冊子体の発行を終了し、電子版のみの提供へ移行しています。

KMJ の年間の論文数とページ数は、この 5 年間程度ではそれぞれ 20 から 30 論文、400 から 500 ページ程度です。分野は特に指定しておらず、数学全般の論文の投稿を広く受け付けていますので是非積極的に投稿してください。投稿時には著者として注意深く内容を精査するのはもちろんですが、より多くの人の興味を引くように、問題の背景や意義などが専門分野外の数学者にも多少なりとも理解できるような記述が論文冒頭にあることが望ましいです。現在、アクセプトから出版までの期間は半年から一年程度となっていますので、バックログとしては比較的短い状況です。論文投稿からアクセプトに至る時間については査読の進み具合に大きく依存するのは周知のことですが、査読期間自体は依頼時に 3 ヶ月としてお願いしています。この場をお借りして、すべて匿名かつ無報酬でやっていただいている査読者の方々には感謝の意を表したいです。またこれからも皆様をお願いすることがあると思いますが、もし査読をお引き受けしていただかなくとも、何人か査読をやってもらえそうな人を挙げていただくと大変助かりますので、よろしくお願ひします。準備にあたり永原健太郎氏（東京科学大リベラルアーツ研究教育院）と須藤恵美子氏（KMJ 編集担当）には大変お世話になりました。この場を持って感謝申し上げます。

（文責 利根川吉廣）